

仙台塩釜港（塩釜・松島港区）の概要

塩釜港のあらまし



塩釜港は、古くは奈良・平安の時代、製塩地として開拓されたことにより始まると伝えられ、藩政時代伊達政宗の水運振興策によって、仙台の外港として港の整備が進められ、四代藩主綱村公の特別保護政策のもとさらなる繁栄をむかえました。

しかし、明治維新後特例の廃止によってにわかに衰微し、港内は小舟の出入も不便な状態になりました。

明治 15 年、地元の熱烈な要望により塩釜港修築工事が開始され、昭和 9 年の開港指定を受けるに至り、今日の塩釜港の基礎が形成され、港勢も急速に発展しました。

しかし、戦時中の混乱の結果、航路泊地の埋没、岸壁の沈下等により港湾機能が著しく低下したため、昭和 22 年から改修工事が行われました。



昭和 26 年には重要港湾に指定され、港湾整備計画に基づき、貞山ふ頭 1 号岸壁（昭和 34 年完成）、貞山ふ頭 2 号栈橋（昭和 40 年完成）、中ふ頭前面栈橋（昭和 40 年完成）、貞山ふ頭 3・4 号栈橋（昭和 44 年完成）と整備が進み、その後、臨港道路、鉄道、上屋等の周辺施設も着々と建設され、港湾機能の充実がはかられました。

東宮地区（七ヶ浜町）においても、栈橋等の港湾施設と臨海企業団地の整備が進められました。

平成元年には、西ふ頭に観光船用浮栈橋が完成し、松島、浦戸諸島への観光機能の拡充がなされました。

現在、塩釜港区では、港湾施設の計画的な維持更新や放置艇対策のための施設整備のほか、塩釜港港奥部における津波・高潮対策や環境整備を、まちづくりと一体となって進めています。

（写真は平成 14 年撮影）

松島港のあらまし



松島港を含む松島湾は、緑の松に覆われた大小 260 余の島々が浮かび、なだらかな丘陵地帯に囲まれた風光美により、日本三景の一つとして古くからその名を全国に知られてきました。

この地域は、明治 35 年に県内初の県立自然公園松島に指定され、大正 12 年には国の特別名勝に指定されました。藩政時代、藩祖伊達政宗公が慶長 8 年（1603 年）仙台（千代）に城府を移し、現在国宝・重要文化財等に指定されている瑞巖寺、五大堂、観瀾亭等の歴史的な文化財を当地域に残したことが、観光の始まりといわれています。



昭和 27 年の第 7 回国民体育大会の宮城開催により松島がヨット競技会場となり、ヨットハーバーの建設と航路の浚渫工事が同年から始まり、観光港としての本格的な整備が始められました。

以後、観光船の係留施設、親水性の人工海浜、高潮対策の護岸・胸壁工事と進めてきました。

日本三景松島を臨む松島港は本県最大の観光港として、景観と親水性の高い港を目指し、今後一層の整備を進める必要があります。（写真は平成 9 年撮影）

塩釜港のあゆみ

奈良時代	国府多賀城の製塩地として栄える
江戸初期	藩主伊達家の庇護のもと、仙台の外港として栄える
明治 15 年	塩釜港修築工事起工
明治 33 年	三陸沿岸と通商開始
明治 43 年	第 2 種重要港湾に指定
大正 4 年	第一期築港工事起工
大正 15 年	塩釜港務所設置
昭和 8 年	3,000 トン 3 バース、1,000 トン 3 バースの繫船岸壁、物揚場、航路等の第一期工事完了
昭和 9 年	横浜税関支署設置
昭和 18 年	東北海運局設置（平成元年に仙台市移転）
昭和 22 年	運輸省直轄工事開始
昭和 23 年	第二管区海上保安本部設置、塩釜港長事務所開設
昭和 25 年	塩釜海上保安部開設
昭和 26 年	重要港湾の指定を受ける
昭和 34 年	貞山 1 号岸壁完成
昭和 40 年	貞山 2 号・中ふ頭前面栈橋完成
昭和 44 年	貞山 3・4 号栈橋完成
昭和 51 年	東宮栈橋完成（～昭和 54 年）
昭和 63 年	西ふ頭栈橋完成（～平成元年）
平成 3 年	レジャー用小型船舶物揚場完成
平成 7 年	清掃船「シークリーン号」就航
平成 8 年	塩釜港旅客ターミナル「マリンゲート塩釜」オープン
平成 13 年	港名を仙台塩釜港（塩釜港区）に変更、特定重要港湾に昇格
令和 5 年	貞山 1 号岸壁完成 北浜緑地完成

松島港のあゆみ

江戸初期	藩主伊達家の仙台城府
明治 14～17 年	野蒜港の築港工事、廃港
明治 35 年	県立自然公園松島の指定
大正 12 年	国の特別名勝松島の指定
昭和 27 年	国民体育大会のヨット競技会場となる
昭和 48 年	地方港湾改修事業、高潮対策事業着手
昭和 62 年	海岸環境整備事業着手
平成 3 年	浪打浜（人工海浜）一部供用開始（平成 6 年完成）
平成 9 年	海岸通り浮棧橋完成
平成 20 年	仙随浮棧橋完成